



張 麟声 教授 略歴・業績目録

|       |                                                                                                  |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2022-04-20<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/10466/00017669">http://hdl.handle.net/10466/00017669</a>          |



張麟聲教授近影

## 学 歴

- 1978年 7月 復旦大学（中国）外国語学部日本語日本文学科卒業  
 1980年 9月 北京日本語教師研修センター（中国）研修生  
 1981年 7月 北京日本語教師研修センター（中国）修了  
 1981年 10月 大阪大学文学部国文学科留学  
 （北京日本語教師研修センターより推薦、身分は研修教師）  
 1983年 3月 大阪大学文学部国文学科留学修了  
 1985年 9月 北京日本学研究センター（中国）修士課程入学  
 1987年 7月 北京日本学研究センター（中国）修士課程修了  
 1992年 4月 大阪大学大学院文学研究科研究生入学（文部省国費留学生）  
 1993年 4月 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程入学  
 1997年 9月 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了  
 1997年 9月 博士（文学）（大阪大学）

## 職 歴

- 1978年 9月 山西大学（中国）外国語学部日本語日本文学科助手  
 1983年 9月 山西大学（中国）外国語学部日本語日本文学科副学科長（1985年8月まで）  
 1987年 9月 山西大学（中国）外国語学部日本語日本文学科講師  
 1990年 9月 山西大学（中国）外国語学部日本語日本文科学科長（1992年3月まで）  
 1996年 4月 帝塚山学院大学文学部国際文化学科非常勤講師（1999年3月まで）  
 1996年 4月 奈良大学教養部非常勤講師（1999年3月まで）  
 1997年 4月 関西大学文学部中国語中国文学科非常勤講師（1999年3月まで）

- 1997年 12月 香港中文大学文学部ポスト博士研究員  
(共同研究プロジェクトに参加) (1998年11月まで)
- 1999年 4月 同志社女子大学学芸学部日本語日本文学科外国人契約  
特別教員 (コントラクト・ティーチャー) (2000年3  
月31日まで)
- 2000年 4月 立命館アジア太平洋大学アジア太平洋マネジメント学  
部教授
- 2004年 4月 大阪府立大学総合科学部総合言語文化学科教授
- 2005年 4月 公立大学法人大阪府立大学人間社会学部、人間社会科  
学研究科教授
- 2016年 4月 公立大学法人大阪府立大学人間社会システム研究科教  
授 (現在に至る)

## 所 属 学 会

- 1990年 4月 日本語教育学会会員 (現在に至る)。大会委員会委員  
(2009年7月1日～2013年6月30日)。学会代議員<他  
学会の理事相当> (2015年6月23日～2017年6月19  
日)。
- 1996年 4月 日本語学会 (国語学会) 会員 (現在に至る)。
- 2000年 12月 日本語文法学会会員 (現在に至る)。学会誌委員 (2007  
年度～2012年度);学会誌委員 (2016年度～2018年度)。
- 2002年 4月 言語学会会員 (現在に至る)。大会運営委員 (2012年  
度～2014年度)。
- 2005年 9月 中国語話者のための日本語教育研究会会員、代表理事  
(2005年9月～2016年3月)
- 2000年 4月 中国語話者のための日本語教育研究会編集委員会委員  
長 (2000年度～2008年度)
- 2016年 4月 言語の類型的特徴研究会会員、代表理事 (現在に至る)。

## 研 究 業 績

### 【著 書】

1. 『世界における話者数トップ20言語と日本語』, 日中言語文化出版社, 2021年3月.
2. 『汉日对比研究与日语教学』, 高等教育出版社(中国), 2016年3月.
3. 『新版日中ことばの漢ちがい』, 日中言語文化出版社, 2016年1月.
4. 『新版中国語話者のための日本語教育研究入門』, 日中言語文化出版社, 2011年9月.
5. 『中国語話者のための日本語教育研究入門』, 大阪公立大学共同出版会, 2007年5月.
6. 『日中ことばの漢ちがい』, くろしお出版, 2004年5月.
7. 『日本語教育のための誤用分析 ——中国語話者の母語干渉20例』, スリーエーネットワーク, 2001年10月. (张麟声著、张佩霞译《中国日语学习者常见误用分析》, 高等教育出版社(中国), 2011年5月).
8. 『汉日语言对比研究』, 北京大学出版社(中国), 1993年11月.

### 【論 文】

1. 「最新の形態類型論の枠組みから見る日本語の形態類型的性格について」, 大阪府立大学人間社会システム科学研究科言語文化専攻『言語文化学研究 言語情報編』, 第16号, pp.17~36, 2021年03月.
2. 「「吧」の日本語訳について —多角的な視点から—」, 『中文日訳の基礎的研究(二)』, pp.129~140, 日中言語文化出版社, 2021年03月.

3. 「Topic-Prominent Languagesの主題の在り方について ―日本語と中国語の研究現状の整理を中心に―」, 言語の類型的特徴対照研究会編『言語の類型的特徴対照研究会論集』 2, pp.19～40, 日中言語文化出版社, 2019年12月.
4. 「中国語の名詞フレーズの日本語訳に関する一考察」, 『中文日訳の基礎的研究 (一)』, pp.3～23, 日中言語文化出版社, 2019年10月
5. 「中国語話者用日本語教育文法における動詞の自他と使役について」, 『中国語話者のための日本語教育研究』, 第10号, pp57-70, 2019年07月.
6. 「中国語話者用日本語教育文法における「使役」」, 『中国語話者のための日本語教育研究』, 第9号, pp104-114, 2018年07月.
7. 「试析汉藏语语言存在表达的类型特征」, 『汉藏语学报』, 第10期, pp11-24, 2018年05月.
8. 「言語の単純語の形態的タイプと合成語の意味的タイプの相関関係について」, 大阪府立大学人間社会システム科学研究科言語文化学専攻『言語文化学研究 言語情報編』, 第13号, pp19-36, 2018年03月.
9. 「从语言类型学的角度来看汉语“体词谓语句”“是字句”的定位问题」, 『国际汉语学报』, 第8卷第2辑, pp1-14, 2017年12月.
10. 「語彙的要素と文法的要素の組み合わせ方と主題マーカの相関関係」, 『語彙論的統語論の新展開』, pp47-61, くろしお出版, 2017年11月
11. 「关于对比研究学科建设的几点思考 ―以“也”和“も”为例―」, 《汉日语言对比研究论丛》, 第8辑, pp1-15, 2017年08月.
12. 「从对外汉语教学的角度来看“体词谓语句”“是字句”的互补性分布」, 『海外华文教育』, 总第90期, pp322-332, 2017年07月.
13. 「中国語話者用日本語教育文法における「主題」と「主語」」, 『中国語話者のための日本語教育研究』, 第8号, pp97-106, 2017年07月.

14. 「中国語における「晋方言」のイエス・ノー疑問文の構文パターンについて」, 大阪府立大学人間社会システム科学研究科言語文化学専攻『言語文化学研究 言語情報編』, 第12号, pp47-64, 2017年03月.
15. 「名詞述語文における中日対照研究の諸問題について — 『みんなの日本語』を手掛かりに—」, 『中国語話者のための日本語教育研究』, 第7号, pp1-14, 2016年07月.
16. 「外语教学型对比研究中的几项重要原则」, 大阪府立大学人文学会『人文学論集』, 第34集, pp213-227, 2016年03月.
17. 「中国語のイエス・ノー疑問文の構文パターンについて」, 日中言語研究と日本語教育会『日中言語研究と日本語教育』, 第8号, pp24-37, 2015年10月.
18. 「再谈对比语言学的学术划界问题」, 『国际汉语学报』, 第6卷第1辑, pp48-67, 2015年08月.
19. 「中国語話者用日本語教育文法の体系的構築 —中国語話者のための日本語教育研究会の今後の目標として—」, 『中国語話者のための日本語教育研究』, 第6号, pp1-17, 2015年07月.
20. 「外语教学和外语教学型对比研究说略」, 『海外华文教育』, 总第76期, pp322-332, 2015年07月.
21. 「言語の類型的特徴をとらえるための対照研究について」, 大阪府立大学人間社会学部言語文化学科『言語文化学研究 言語情報編』, 第10号, pp43-64, 2015年03月.
22. 「母語方言に入声を持つ学習者は促音を習得しやすいか —広東語母語話者を例に」(劉永亮、石迎春と共著), 大阪府立大学人文学会『人文学論集』, 第33集, pp191-201, 2015年03月.
23. 「寻求语言类型性特征的对比研究」《日语学习与研究》, 2014年第5期, pp20-28, 2014年10月.
24. 「中国語話者による中日同形漢語語彙の習得を考えるための対照研究」, 『中国語話者のための日本語教育研究』, 第5号, pp17-30, 2014年07月.

25. 「HSK动态语料库和我们的“假说验证型”研究模式——以日本学生习得领格标记“的”为例」, 崔希亮、张宝林主编《第二届汉语中介语语料库建设与应用国际学术研讨会论文选集》, pp383-393, 北京语言大学出版社, 2013年12月.
26. 「再び「V、V」と「Vてくる、Vていく」について」, 『日中言語研究と日本語教育』, 第6号, pp25-36, 2013年10月.
27. 「关于“服务于寻求语言类型特征的对比研究”的几点构思」, 《汉日语言对比研究论丛》, 第4辑, pp16-26, 2013年08月.
28. 「景頗語の限定助詞sha、chyuとhkraishaについて」, 大阪府立大学人文学会『人文学論集』, 第31集, pp221-230, 2013年03月.
29. 「试谈“汉语母语人用日语教学语法”及与此相关的几个问题」, 彭广陆等编《日语语法教学研究》, 北京大学出版社, pp13-24, 2013年2月.
30. 「日本語の「の」と中国語の「的」における双方向習得研究(1) —修飾部が指示詞であるなどのケースを例に一」, 『中国語話者のための日本語教育研究』, 第3号, pp1-17, 2012年07月.
31. 「「学習者独自の規則」とは何か —その形成にかかわる認知的要因からの分類の一試案」, 日本語/日本語教育研究会『日本語/日本語教育研究』, [3], pp1-19, ココ出版, 2012年05月.
32. 「景頗語の限定助詞shaについて」, 大阪府立大学人文学会『人文学論集』, 第30集, pp131-142, 2012年03月.
33. 「从“也”及日语相关形式“も”习得过程中的词序偏误看“母语迁移”的心理语言学条件 —兼谈“双向二语习得研究”的意义」, 厦门大学汉语国际推广南方基地『海外华文教育』, 总第60期, pp10-17, 2011年09月.
34. 「试谈翻译、书面型语言接触与语言影响 —以日语被动句的发展演变为例一」, 中国民族语文翻译局《民族翻译》编辑部『民族翻译』, 总第80期, pp61-68, 2011年09月.
35. 「仮説検証型双方向習得研究について —日本語の「も」と中国語の「也」を例に」, 『中国語話者のための日本語教育研究』,

- 第2号, pp1-14, 2011年07月.
36. 「景頗語の「ai」の文法的性格について」, 大阪府立大学人文学会『人文学論集』, 第29集, pp163-172, 2011年03月
  37. 「日本語を母語とする中国語学習者の「的」の過剰使用について (1) —連体修飾マーカ—の日本語中国語双方向習得研究の立場から—」, 大阪府立大学人間社会学部言語文化学科『言語文化学研究 言語情報編』, 第6号, pp1-15, 2011年03月.
  38. 「「同類」の「も」と対応する中国語の諸形式との対照研究」, 『中国語話者のための日本語教育研究』, 創刊号, pp1-14, 2010年07月.
  39. 「「は」のような主題マーカ—と言語語順との相関関係について」, proceedings of the Thirty-Fourth Annual Meeting of The kansai Linguistic Society 2010, pp254-265, 2010年06月.
  40. 「言語教育のための対照研究の方法論について」, 大阪府立大学人間社会学部言語文化学科『言語文化学研究 言語情報編』, 第5号, pp1-19, 2010年03月.
  41. 「日本語の「も」と羌語の「lɔ」についての覚書」(黄成龍と共著), 大阪府立大学人文学会『人文学論集』, 第28集, pp.151-159, 2010年03月.
  42. 「名詞にかかる連語的修飾構造の日中対照研究 —「の」と“的”の使用の有無を中心に—」, 大阪府立大学人間社会学部言語文化学科『言語文化学研究 言語情報編』, 第4号, pp.23-36, 2009年03月.
  43. 「景頗語の「mung」は助詞である —Jinpo語の助詞体系の構築に向けて—」, 大阪府立大学人文学会『人文学論集』, 第27集, pp.37-45, 2009年03月.
  44. 「日本語の「も」とウイグル語の「mu」についての覚書 (1)」(夏迪娅・伊布拉音と共著), 大阪府立大学人文学会『人文学論集』, 第27集, pp.47-52, 2009年03月.
  45. 「作文語彙に見られる母語の転移 —中国語話者による漢語語彙

- の転移を中心に」『日本語教育』, 140号, 日本語教育学会, pp.59-69, 2009年1月.
46. 「日中大学生対人空間・身体接触意識刍論」李庆祥編『中日非語言交际研究』, 外语教学与研究出版社(中国), pp.120-130, 2008年11月.
47. 「试谈《论语》中的话题标识“者”和“也”——借鉴日语语言学的研究成果进行汉语研究的一个尝试」『中国語研究』編集委員会『中国語研究』, 第50号, pp.45-53, 2008年10月.
48. 「日本語と中国語の存在表現について」, 日中言語対照研究会編『日中言語対照研究論集』, 第10号, pp.17-30, 2008年5月.
49. 「伝説文体に見られる景頗語(Kachin)の主題マーカー」, 大阪府立大学人間社会学部言語文化学科『言語文化学研究 言語情報編』, 第3号, pp.17-31, 2008年03月.
50. 「日本語とモンゴル語の存在表現の対照研究」(清格楽図と共著), 大阪府立大学人文学会『人文学論集』, 第26集, pp.149-162, 2008年03月.
51. 「「そこで」と「それで」について」, 趙華敏、楊華、彭広陸、村木新次郎編『日本語と中国語と —その体系と運用—』, 学苑出版社(中国), pp.101-111, 2007年12月.
52. 「『易経』『書経』『詩経』における主題マーカーの『者』と『也』について」『中国語研究』編集委員会『中国語研究』, 第49号, pp.42-48, 2007年10月.
53. 「日本語と中国語の「冠詞」についての覚書」(庵功雄・張麟声), 『一橋留学生センター紀要』, 第10号, pp.29-36, 2007年7月.
54. 「言語教育のための対照研究について」, 日中言語対照研究会編『日中言語対照研究論集』, 第9号, pp.26-39, 2007年5月.
55. 「中国人学者によるカチン(景頗)語の主題助詞の研究について——日本語の「は」との対照研究の立場から」, 大阪府立大学人文学会『人文学論集』, 第25集, pp.1-10, 2007年3月.
56. 「言語研究のための対照研究について——日本国内の事例を中

- 心に——」, 大阪府立大学人間社会学部言語文化学科『言語文化研究 言語情報編』, 第2号 pp.1-14, 2007年3月.
57. 「略谈以汉语为母语的学习者使用接续助词时的偏误倾向 ——以表示因果关系的「て」「から」「ので」「ため」为例」, 北京大学日本言語文化学部『日本言語文化研究』, 6輯, pp.105-125, 2006年10月.
58. 「現代日本語の存在表現」, 益岡隆志・野田尚史・森山卓郎編『日本語文法の新地平1 形態・叙述内容編』, くろしお出版, pp.69-82, 2006年10月.
59. 「关于“表达语法・命题篇”基本框架的设想 ——兼谈汉日对比研究的一种思路」, 《日语研究》编辑委员会编《日语研究》, 第3輯, 商务印书馆, pp.34-50, 2005年12月.
60. 「日本語の長文について」『大阪府立大学言語文化研究』, 第4号, 大阪府立大学言語文化研究会, pp.33-37, 2005年3月.
61. 「景頗語 (Kachin) の主題マーカーについて」, 益岡隆志編『主題の対照』, くろしお出版, pp.41-54, 2004年11月.
62. 「关于被动句与文体的几个问题」胡振平主编《当代日本语学研究 ——北原保雄博士业绩纪念论文集》, 高等教育出版社, pp.31-40, 2003年12月.
63. 「日本語教育のために必要な日本語の知識は何か」『国文学解釈と鑑賞』, 第68巻7号, 至文堂, pp.168-174, 2003年7月.
64. 「論説文体の日本語における因果関係を表す接続詞型表現をめぐって —— 「その結果」, 「そのため」と「したがって」 ——」『日本語教育』, 117号, 日本語教育学会, pp.23-32, 2003年4月.
65. 「主題マーカーを持つ言語である景頗語について」『ポリグロシア』, 第6巻, 立命館アジア太平洋大学言語教育センター, pp.43-46, 2002年10月.
66. 「中国の言語政策研究ノート」『ポリグロシア』, 第5巻, 立命館アジア太平洋大学言語教育センター, pp.119-127, 2002年3月.
67. 「「(の)中」の基本的意味とその分布について」『日本語教育』,

- 108号, 日本語教育学会, pp.51-59, 2001年1月.
68. 「日本語の「(の)上」と中国語の「上」をめぐる」(李活雄と共著), 『日本語学』, 第20巻第1号, 明治書院, pp.66-73, 2001年1月.
  69. 「日本語受動文の真性動作主マーカ―について」佐治圭三教授古稀記念論文集編集委員会編『日本と中国 言葉の梯』, くろしお出版, pp.157-174, 2000年6月.
  70. 「受動文における動作主不明示の語用論的規則について」『ポリグロシア』, 第1巻, 立命館大学言語教育センター, pp.73-80, 1999年4月.
  71. 「受動文における非典型的動作主につく動作主マーカ―について」『世界の日本語教育』, 第8号, 国際交流基金日本語国際センター, pp.191-201, 1998年6月.
  72. 「現代日本語受動文の構文的タイプ」『現代日本語研究』, 第5号, 大阪大学日本語学講座(現代日本語学), pp.15-40, 1998年3月.
  73. 「原因・理由を表す「して」の使用実態について——「ので」との比較を通して——」『日本語教育』, 96号, 日本語教育学会, pp.121-131, 1998年3月.
  74. 「受動文の分類について」『現代日本語研究』, 第4号, 大阪大学現代日本語学講座, pp.1-14, 1997年3月.
  75. 「受動文における動作主明示・不明示の構文論的規則について」『日本語学』, 第16巻第2号, 明治書院, pp.70-78, 1997年2月.
  76. 「「ニ」型有情動作主明示式非情受身文について」『現代日本語研究』, 第3号, 大阪大学現代日本語学講座, pp.35-53, 1996年3月.
  77. 「再び「中日両語の助数詞」について」宮地裕・敦子先生古稀記念論集刊行会編『日本語の研究』, 明治書院, pp.445-453, 1995年11月.
  78. 「ニとカラとニヨッテ——受動文における動作主マーカ―——」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法(上)』,

- くろしお出版, pp.131-140, 1995年10月.
79. 「ガとカラ ——能動文における動作主を表す用法——」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法（上）単文編』, くろしお出版, pp.43-52, 1995年10月.
80. 「从感情的表达方式看日本式的行为趋向」北京大学日本研究中心編『日本学』, 第四辑, 北京大学出版社, pp.12-21, 1995年5月.
81. 「能動文受動文選択に見られる一人称の振る舞い方について」『日本学報』, 14, 大阪大学文学部日本学研究室, pp.95-106, 1995年3月.
82. 「中日所在表現の対照研究」林四郎編『文化言語学 ——その提言と建設』, 三省堂, pp.890-873, 1992年10月.
83. 「「クル・イク」フォームに見る日本語の性格 ——中国語と比較して——」文化言語学編集委員会編『応用言語学講座4 知と情意の言語学』, 明治書院, pp.157-181, 1992年8月.
84. 「感情動詞的表現機能論」『中国語研究』, 第33号, 白帝社, pp.97-107, 1991年10月.
85. 「日語的表現論研究」『外語教学与研究』, 1991年第3期, 北京外国語大学言語研究所, pp.25-27, 1991年7月.
86. 「中日様態存在表現の対照研究」『月刊言語』, 第20巻第7号, 大修館書店, pp.76-83, 1991年7月.
87. 「中日単純存在表現の対照研究」『日本語学』, 第9巻第9号, 明治書院, pp.65-76, 1990年9月.
88. 「道教思想在日本的传播 ——介紹和田萃的“民間道教”說」『传统文化』, 1990年第3期, 山西孔子学会（中国）, pp.50-54, p.58, 1990年8月.
89. 「浅谈存在動詞“有”与“ある”的对应分布域」『日語學習与研究』, 1990年第3期, 对外經濟貿易大学（中国）, pp.36-41, 1990年5月.
90. 「试論日本上古时代的宗教形式」『五台山研究』, 1990年第1期,

- 五台山研究会（中国），pp.40-43，1990年1月。
91. 「松下语法浅析」『福建外语』，1989年第1、2期，福建師範大学外国語学部（中国），pp.106-109，1989年6月。
  92. 「中日神话比较」『晋阳学刊』，1988年第5期，山西社会科学院（中国），pp.100-102，p109，1988年9月。
  93. 「试论兼跨空间时间范畴的表达方式」『日语学习与研究』，1988年第3期，对外經濟貿易大学（中国），pp.34-39，1988年5月。
  94. 「日中動詞の対照研究」『日本語学』，第6卷第12号，明治書院，pp.72-84，1987年12月。
  95. 「日中文章学研究综述」『语文导报』，1987年第10期，杭州大学（中国），pp.33-37，1987年10月。
  96. 「浅谈“道”对日本文化的渗透」『山西大学学报』，1987年第3期，山西大学（中国），pp.36-38，p.28，1987年7月。
  97. 「中日兩語の文法单位体」宮地裕編『論集日本語研究（一）現代編』，明治書院，pp.231-254，1986年11月。
  98. 「中日兩語のアスペクト —— 「了」と「た」を中心に」『日本語学』，第4卷第3号，明治書院，pp.74-91，1985年3月。
  99. 「试谈对比语言学极其研究方法」『山西大学学报』，1984年第2期，山西大学（中国），pp.118-122，p.54，1984年4月。
  100. 「日中副詞の比較 —— ムード副詞を中心に」（渡辺実と共著），渡辺実編『副用語の研究』，明治書院，pp.453-473，1983年10月。
  101. 「“のだから”について」北京日本語教師研修センター編『日本語教育研究論纂 I』，国際交流基金，pp.32-37，1983年8月。
  102. 「日中兩語の助数詞」『日本語学』，第2卷第8号，明治書院，pp.91-99，1983年8月。
  103. 「“だろう” “のだろう” “ことだろう” 浅析」『日语学习与研究』，1982年第2期，对外經濟貿易大学（中国），pp.45-48，1982年2月。

**【編集】（1）『中国語話者のための日本語教育研究』**

1. 『中国語話者のための日本語教育研究』創刊号，日中言語文化出版社，2010年。
2. 『中国語話者のための日本語教育研究』第2号，日中言語文化出版社，2011年。
3. 『中国語話者のための日本語教育研究』第3号，日中言語文化出版社，2012年。
4. 『中国語話者のための日本語教育研究』第4号，日中言語文化出版社，2013年。
5. 『中国語話者のための日本語教育研究』第5号，日中言語文化出版社，2014年。
6. 『中国語話者のための日本語教育研究』第6号，日中言語文化出版社，2015年。
7. 『中国語話者のための日本語教育研究』第7号，日中言語文化出版社，2016年。
8. 『中国語話者のための日本語教育研究』第8号，日中言語文化出版社，2017年。
9. 『中国語話者のための日本語教育研究』第9号，日中言語文化出版社，2018年。

**【編集】（2）『一衣帯水』**

1. 『一衣帯水』洪号，日中言語文化出版社，2020年。
2. 『一衣帯水』宙号，日中言語文化出版社，2019年。
3. 『一衣帯水』字号，日中言語文化出版社，2018年。
4. 『一衣帯水』黄号，日中言語文化出版社，2017年。
5. 『一衣帯水』玄号，日中言語文化出版社，2016年。
6. 『一衣帯水』地号，日中言語文化出版社，2015年。
7. 『一衣帯水』天号，日中言語文化出版社，2014年。

**【編集】（3）『中文日訳の基礎的研究』**

1. 『中文日訳の基礎的研究（一）』, 日中言語文化出版社, 2019年10月
2. 『中文日訳の基礎的研究（二）』, 日中言語文化出版社, 2020年12月

**【企画】（1）中国語をベースとした言語類型論・認知言語学研究叢書**

1. 中国語をベースとした言語類型論・認知言語学研究叢書（5）沈家煊著、下地早智子果監訳『認知と中国語文法』, 日中言語文化出版社, 2018年12月.
2. 中国語をベースとした言語類型論・認知言語学研究叢書（4）徐烈炯・劉丹青著、木村裕章訳『主題の構造と機能』, 日中言語文化出版社, 2017年12月.
3. 中国語をベースとした言語類型論・認知言語学研究叢書（3）劉丹青他編、山田留里子、木村裕章他訳『中国語名詞性フレーズの類型学的研究』, 日中言語文化出版社, 2016年3月.
4. 中国語をベースとした言語類型論・認知言語学研究叢書（2）沈家煊著、古川裕訳『現代中国語 一文法六講』, 日中言語文化出版社, 2014年11月.
5. 中国語をベースとした言語類型論・認知言語学研究叢書（1）劉丹青著、杉村博文他訳『語順類型論と介詞理論』, 日中言語文化出版社, 2013年12月.

**【企画】（2）記述言語学者自選集**

1. 記述言語学者自選集（2）栗林裕著『トルコ語とチュクル諸語の研究と日本語との対照』, 日中言語文化出版社, 2020年6月
2. 記述言語学者自選集（1）杉村博文著『現代中国語のシNTAX』

ス』, 日中言語文化出版社, 2017年6月.

**【企画】(3) 人文科学の一流的研究を目指す博士論文叢書**

1. 人文科学の一流的研究を目指す博士論文叢書(8) 鄭惠先『日本語人称詞の社会言語学的研究』, 日中言語文化出版社, 2020年10月.
2. 人文科学の一流的研究を目指す博士論文叢書(7) 胡君平『中国語話者における日本語の「させる」構文の習得』, 日中言語文化出版社, 2020年05月.
3. 人文科学の一流的研究を目指す博士論文叢書(6) 中石ゆうこ『日本語の対のある自動詞・他動詞に関する第二言語習得研究』, 日中言語文化出版社, 2020年01月.
4. 人文科学の一流的研究を目指す博士論文叢書(5) 蔡薰婕『現代日本語文の程度修飾と数量修飾の体系』, 日中言語文化出版社, 2019年09月.
5. 人文科学の一流的研究を目指す博士論文叢書(4) 梅木俊輔『聞き返し発話の解釈に関する認知語用論的考察』, 日中言語文化出版社, 2019年08月.
6. 人文科学の一流的研究を目指す博士論文叢書(3) 西香織『中国語の三人称代名詞“它”に関する研究』, 日中言語文化出版社, 2019年03月.
7. 人文科学の一流的研究を目指す博士論文叢書(2) 陳臻渝『現代日本語の前置き表現の記述的研究』, 日中言語文化出版社, 2018年01月.
8. 人文科学の一流的研究を目指す博士論文叢書(1) 建石始『日本語の限定詞の機能』, 日中言語文化出版社, 2017年12月.

【企画】（4）一衣帯水を行き来する人・物の明暗

1. 林麗婷『中日近代文学における留学生表象』, 日中言語文化出版社, 2019年08月.

【学位申請論文】

- 〈博士学位申請論文〉『現代日本語の受動文についての記述的研究』(大阪大学), 1997年.

【研究ノート・書評】

1. 「中島悦子著『日中対照研究 ヴォイス ——自・他の対応・受身・使役・可能・自発——』」『日本語の研究』, 第6巻1号, pp.40-46, 2010年1月.

【執筆】

1. 日本語記述文法研究会『現代日本語文法②』(第5章の2節), 三省堂, 2007年12月.
2. 《中日交流标准日本語 初級 上下冊》(承担语法部分), 人民教育出版社(中国), 2005年4月.
3. 林四郎編集代表『例解新国語辞典』第6版(約500語), 三省堂, 2002年1月.
4. 宮地裕編『慣用句の意味と用法』, 明治書院, 1982年10月.
5. 『国外语言学概述』(趙世開他と共著), 北京語言学院出版社(中国), pp.297-302, 1990年8月.

## 【学術書翻訳】

1. 野田尚史编著，張麟声等译，《交际型日语教学语法研究》，外语教学与研究出版社（中国），2014年9月。
2. 野田尚史著，張麟声译《日语主题助词“は”与主格助词“が”》，人民教育出版社（中国），2003年12月。（原著『「は」と「が」くろしお出版）
3. 仁田義雄著，曹大峰、张麟声、李庆祥译《日语的语气和人称》，北京大学出版社（中国），1997年3月。（原著『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房）
4. 真田信治著，胡士云、张麟声等译《日本社会语言学》，書籍出版社（中国），1996年8月。（原著は十数本の論文）
5. 张寿康，王福祥主编，张麟声等译《日本文章学论文集》，外语教学与研究出版社（中国），1992年5月。（原著は日本の複数の研究者の十数本の論文）